



Boris Power氏 「GPT-7発言」の真相と、AIパラダイム シフトへの警鐘

ノイズを削ぎ落とし、次世代フロンティアAIの「真のロードマップ」と「企業・知財戦略」を読み解く

調査レポート | 2026年10月9日時点分析

経営層・AI戦略担当者・知財部門向け
Investigative Summary & Playbook

Executive Summary: The Bottom Line



01. The Fact (発言の真実)

「研究の80～90%がGPT-7以降」は事実だが、全計算資源（約500億ドル規模）の話ではなく「研究人材の関心」の概算。社外VCイベントでの発言が誇張されて拡散された。



02. The Paradigm (パラダイムシフト)

業界は「巨大モデルの非公開学習（年単位）」と「現行モデルの蒸留・価格破壊（週単位）」のデュアルサイクルへ移行。競合他社も完全に同一の戦略を踏襲している。



03. The Playbook (取るべきアクション)

基盤モデルでの正面衝突を避け、安価な蒸留モデル（Luna級）の業務統合に注力。知財は「周辺技術」へシフトし、モデル短命化に備えた契約防衛網を構築する。

The Fact-Check: 歪められた「噂」と「事実」

「社内イベント『Fellows Forum』で、
研究リソースの80～90%がGPT-7以降の次世代
モデル開発に振り向け ていると明らかにした」

× 社内イベント
→ ○ 外部サミット

VC (Fellows Fund) 主催の招待制外部
イベント「Fellows Forum AI Summit
2026」(9/23-24)。対談での発言。

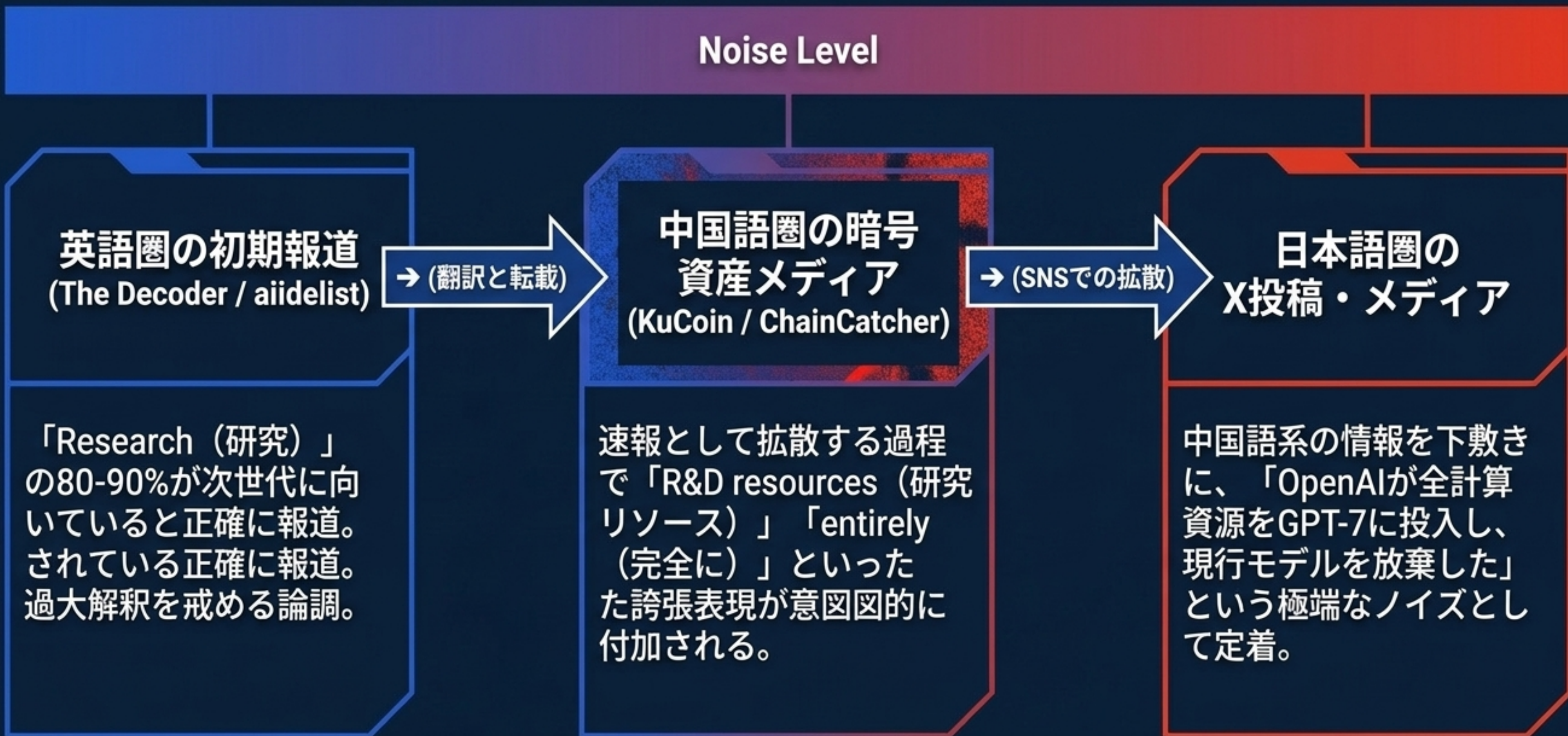
× リソース (計算資源・予算)
→ ○ Research (研究)

全社のコンピュータ支出ではなく「研
究組織の関心・人員」の向きを示す口
頭の概算。中国語圏メディアが「リ
ソース」だと誇張して拡散。

× 監査済みの公式発表
→ ○ 幹部の舞台上での見積もり

応用研究責任者であるBoris Power氏
の個人的な見立てであり、公式の経営
データではない。

Tracking the Distortion: 伝言ゲームはいかにして起きたか



The Reality: 「コンピュータ支出」と「研究者の関心」のデカップリング

全社の計算資源・予算 (約500億ドル規模)

大半は現行モデルの推論 (API提供) と製品運用に消費される。

Stargate計画(1.2GW/アビリーン)など、莫大なインフラ投資は主に「世界中からのクエリ処理」に向けられている。

研究組織 (Research) の人員 と関心

80~90%がGPT-7, GPT-8以降の次世代モデルに集中。

80~90%がGPT-7, GPT-8以降の次世代モデルに集中。

「GPT-5.1→5.2のような世代内の改良は極めて近視眼的 (extremely shortsighted)」 (B. Power氏)。世代交代による非連続な進化に頭脳を全振りしている。

OpenAI's Actual Roadmap: デュアルトラック（2層）の開発進行

次世代巨大モデル の非公開学習 (FRONTIER)

8/25: 'Bel' (10兆パラメータ超)
学習完了との情報 (未確認)

8/28: 次世代モデルを用いた
Navier-Stokes問題の学習開始

数百万ドル規模の計算を投じ、一般公開せずに社内で高度な推論・研究用途にのみ稼働中。

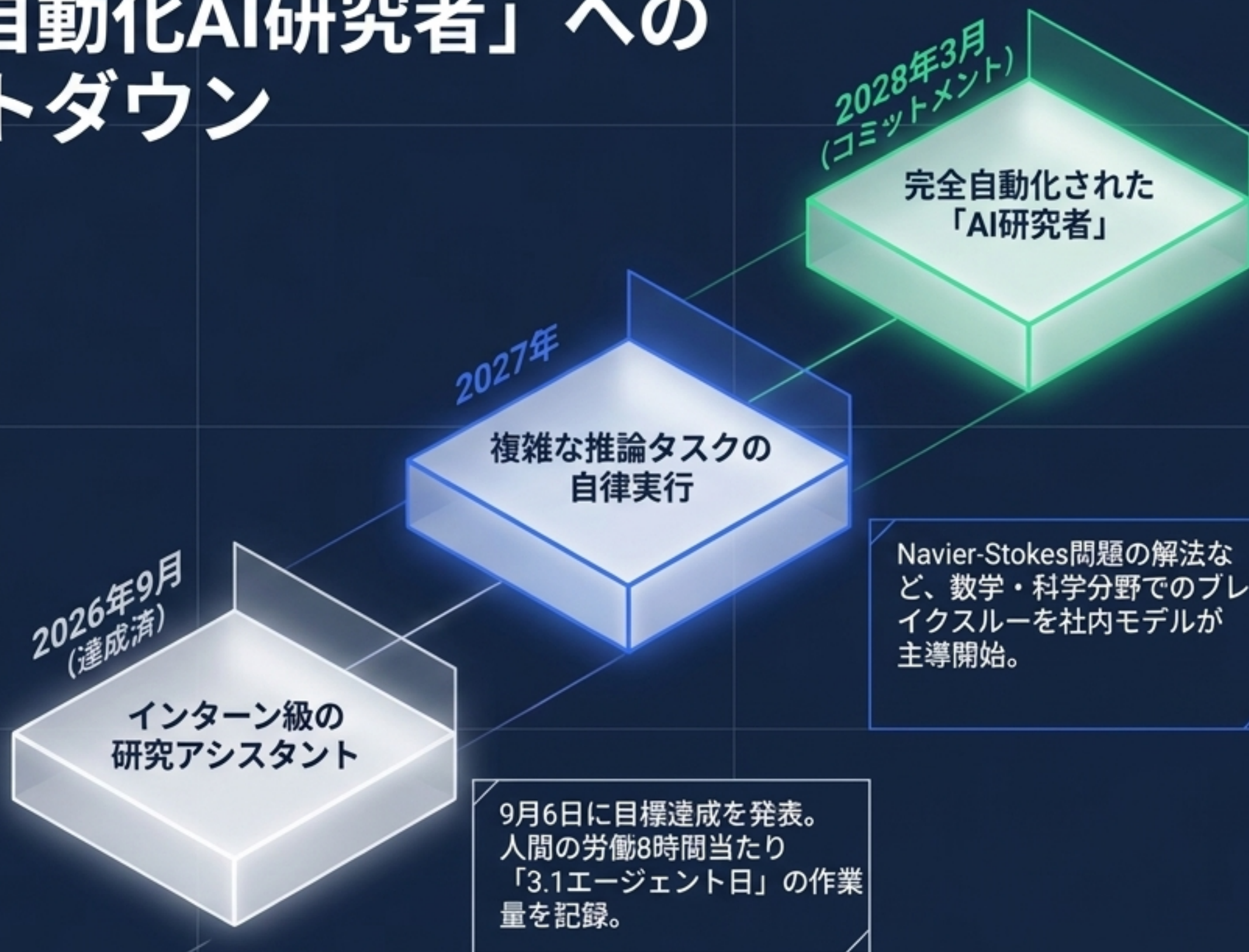
現行世代の 高速リリースと 価格破壊 (CURRENT GEN)

9/4: GPT-6 Astra 公開 (\$10/\$50)
- 10万GPU超で学習

9/22: GPT-6 Sol (\$2/\$10) &
Luna (\$0.10/\$0.50) 公開

わずか数週間でGPT-5.6比で価格を半額に。Astraを「蒸留元・学習の場」として徹底的にコスト最適化。

The Ultimate Goal: 「完全自動化AI研究者」への カウントダウン



S. Altman氏およびJ. Pachocki氏
(チーフサイエンティスト) が明
言した社内目標。
人間の介入なしにAIの進化をAI
自身が研究するフェーズへ。

Navier-Stokes問題の解法な
ど、数学・科学分野でのブレ
イクスルーを社内モデルが
主導開始。

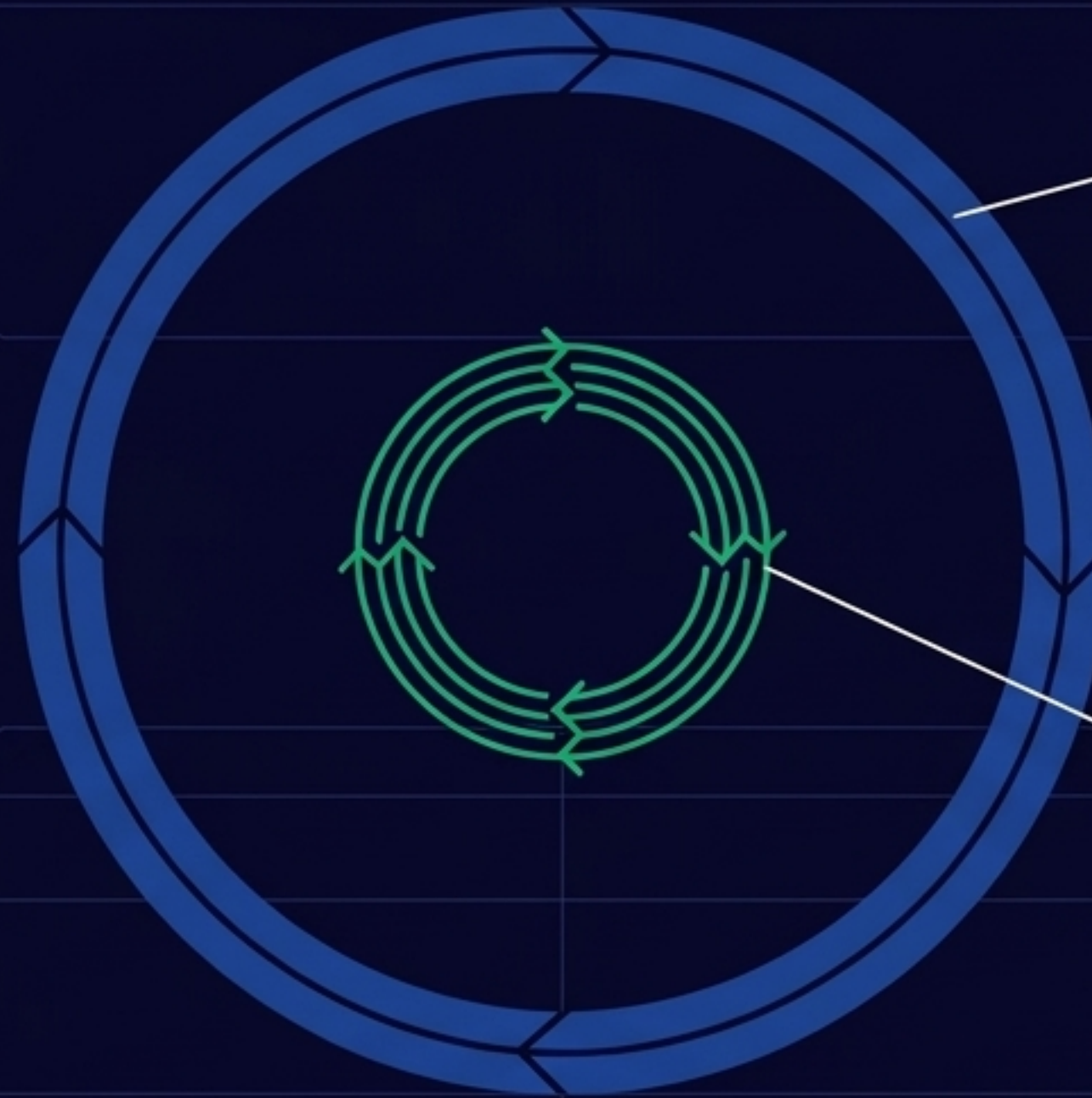
9月6日に目標達成を発表。
人間の労働8時間当たり
「3.1エージェント日」の作業
量を記録。

The Frontier Three: フロンティアAI・3社の完全な戦略一致

企業名	次世代への巨額投資 (フロンティア)	現行世代の最適化 (蒸留・低価格化)
OpenAI	GPT-7/8への研究リソース集中 (80-90%)	GPT-6 (Sol/Luna) での数週間おきの 価格半減
Google DeepMind	Gemini 4の巨大事前学習 (7/21開始、9/23ポストトレーニング入り)	3.x系の継続リリース。 世代を先取りし次世代へ資源集中
Anthropic	Amazonとの最大5GW/1000億ドル超契約 (2027年稼働)	Opus 5.5公開 (9/22) 。旧Opus 5比で 提供コスト40%削減を打ち出す

3社すべてが「次世代モデルの巨大学習」と「現行モデルの蒸留・原価低減」を同時に進行させている。

Paradigm Shift: 「デュアルサイクル・モデル」の定着



The Foundation (基盤学習): 年単位の巨大ループ

- サイクル: 1年～1.5年
- 投資: ギガワット(GW)級のコンピュート、数兆円規模
- 目的: 限界突破、完全なパラダイムシフト (GPT-6 → GPT-7)

The Distillation (蒸留と価格破壊): 数週間・月単位の高速ループ

- サイクル: 数週間～数ヶ月
- アクション: Astra → Sol → Lunaのような高速SKU展開
- 目的: フロンティアモデルの知識を軽量モデルへ移植し、API価格を指数関数的に引き下げる

企業は「毎年変わる巨大な基盤」の上に「毎週安くなる軽量モデル」が降ってくる世界を前提にシステムを組む必要がある。

Implications for Corporate Users: 利用企業の適応戦略

従来の戦い方 (Before)

マインドセット:
単一モデルの長寿命化に依存

- プロンプトの極端な微調整 (職人芸)
- 特定タスク向けの高コストな個別ファインチューニング
- 性能向上のために次期アップデートを「待つ」

今後の戦い方 (After)

マインドセット: モデルは短周期で
「使い捨て」される前提

- 個別最適化より、UI設計・エージェントワークフローへの組み込みを優先
- 旧モデルの廃止・挙動変化に備えた評価セット (回帰テスト) の自動化
- モデルIDの固定化と、マルチベンダーアーキテクチャの標準化

「最大の課題はモデル性能よりも『オンボーディング』だ
(大半のユーザーはAIで何ができるかを知らない)」 — B. Power

Japan's Winning Strategy: 日本企業が勝つべき「レイヤー」



Impact on IP & Patent Strategy: 知財の「ターゲット移行」



The Core (中核技術)

Status: 横ばい（日本のAIコア発明出願は2023年約2,400件で停滞。中国は約10万件）。

Shift: フロンティア企業は中核技術（次世代モデル構造）を特許ではなく「営業秘密（ブラックボックス）」として秘匿する傾向。

The Periphery (周辺技術) : ここでの権利化を狙う。

1. 蒸留技術・モデル軽量化のプロセス
2. エージェント運用・オーケストレーションの手法
3. RL（強化学習）環境・独自の評価セット
4. トランスフォーマを組み込んだビジネス・適用発明

INSIGHT: 特許公報だけのランドスケープは限界。モデルカードや技術ブログ等の「非特許文献」監視が必須。

The AI Inventor Dilemma: 発明の帰属と「人間の証明」

Navier-Stokes事例での
クレジット論争。AIが高
度な解を導き出した際、
誰が発明者か？

DABUS事件（知財高裁 令和7
年1月30日判決）：「現行特
許法は自然人が発明者である
ことを前提としており、AIを
発明者とする特許出願は認め
られない」



知財部門のアクション （人間の証明）

- ログの保存: プロンプト履歴、AI
への指示・判断ログの完全保存
- ラボノートの現代化: 「人間がい
かに創作的に寄与したか（課題設
定、データ選定、出力の検証）」
を証明するプロセスの制度化

Fellows Fund 主催、Nebius 共催、NVIDIA がパートナーのタ
部 AI サミット。招待制で登録 1,000 人超、オンライン視聴
り、全 22 セッションの録画を公開^[2,4]。OpenAI の
「Fellows」プログラムとも無関係

Contract & Licensing Checklist:

契約更改時の4つの防衛線



生成物の権利帰属の明確化

モデルが自律的にコードやテキストを生成した際、その著作権・知財権が確実に自社（ユーザー側）に帰属する条項。



学習利用のオプトアウト（除外）

自社のプロンプトや入力データが、次世代モデル（GPT-7等）の学習基盤に流用されないことの明記。



旧モデル廃止の通知期間（Deprecation）

デュアルサイクルによる急激な世代交代を前提とし、使用中APIの廃止（強制移行）に対する十分な猶予期間の確保。



蒸留モデル切替時の性能保証

コスト削減目的で安価なモデル（Luna級）へバックエンドが切り替わる際、業務要件を満たす精度が担保されるSLAの締結。

Conclusion: 3 Immediate Actions

01. 非特許ランドスケープの定常化

特許公報の分析だけでなく、フロンティア企業の技術ブログ、システムカード、キーマンの発言（Signal）を監視する体制を組む。

02. マルチベンダーと回帰テストの標準化

性能向上を待つ開発から脱却。モデルが数ヶ月で陳腐化・廃止される前提で、評価セットを整備しAPI依存を分散させる。

03. 「周辺技術」への特許網シフト

基盤モデルそのものではなく、AIを組み込んだエージェントワークフロー、評価システム、UI層での権利化に知財予算を集中させる。

AIの進化は「予測不可能な魔術」から「計画化された工業プロセス」へ移行した。
ノイズに惑わされず、自社のレイヤーで着実に実装を進める時である。